

平成 15 年度事業報告

会長・理事 伊 賀 健 一

前期会長・理事	羽鳥光俊	理事	吉田進	理事	酒井善則
次期会長・理事	甘利俊一	理事	須藤昭一	理事	井筒雅之
副会長・理事	富永英義	理事	河内正夫	理事	上林彌彦
副会長・理事	稲垣康善	理事	阪田史郎	理事	中村勝洋
副会長・理事	三木哲也	理事	木戸出正継	理事	赤岩芳彦
副会長・理事	池上徹彦	理事	小柴正則	理事	今井元
理事	中嶋信生	理事	篠田庄司	理事	中嶋正之
理事	小林功郎	理事	寺田浩詔	監事	持田侑宏
理事	山田尚志	理事	高木幹雄	監事	弓場英明
理事	津田俊隆	理事	仙石正和		

事業概況

平成 15 年度は昨年度に引き続きソサイエティ活動の自立化に向けた取組みを本部と連携をとりながら推進した。

本部の活動としては会員へのサービスの向上を継続して進めるが、行動の基本姿勢として平成 14 年度に研究発表と教育を両輪とした取組みへの移行を打ち出したが、平成 15 年度はこれをより明確な形として活動を展開した。

(1) 会員サービスの向上として

- 会誌の見直しを進め、表紙及び体裁の刷新、毎号特集企画等、より身近な機関誌とするように検討を進めている。
- 次期総合版ハンドブックを新たな形態の Web 形式とする方向で検討を開始した。
- Student Branch の試行を開始した (9 校)、16 年度は参加校数の増大を計画している。
- 「男女共同参画委員会」を発足させ、女性会員が積極的に学会活動に参加できるようにするための活動を開始した。
- ホームページの一層の充実を図るとともに、英文ホームページの充実に着手した。海外会員へのサービスの向上を推進している。
- ・大学の教科書「電子情報通信レクチャーシリーズ」全 63 巻中の 12 巻を発行した (今年度新刊は 6 巻)。
- ・選奨改革 WG を発足し、選奨に関する問題点 (新たな賞も含めて) について検討を行い、更に継続して検討する。
- ・先端オープン講座、各種専門講習会を開催した。
- ・平成 14 年度にスタートした海外地域代表者制度の定着化、拡大化を推進した。

(2) ソサイエティに関連する活動として

- エレクトロニクスソサイエティではペーパーレスの研究速報英文論文誌 (ELEX; IEICE Electronics Express) を平成 16 年 4 月に創刊する。16 年 1 月から受付を開始。月 2 回の頻度で発行の予定である。
- ・電子ジャーナル時代の会員制度のあり方の検討と合わせて、学会費とソサイエティ会費のあり方について方

向付けの検討をした。

- ・平成 13 年度から開始された「ソサイエティ活性化基金」を有効に活用し、事業展開の強化を進めた。
- ・ホームページ並びにインターネットの活用を推進し、ソサイエティ会員との緊密な情報のやりとりを目指し、取組みを開始した。
- ・総合大会、ソサイエティ大会については平成 14 年度に電子化を推進したが、更に発展充実させた。

(3) 教育面での活動として

- 認定企画実施委員会の下に構成した部会活動を展開し、分野別の内容例示の充実や教育貢献度評価方法、等の実現に向けて活動した。
- 平成 14 年度から活動を開始した工学会の PDE 協議会に積極的に参加し、技術者資格のあり方について検討を行い、本学会内では新たに発足した CPD (Continuing Professional Development) 部会の中で、具体的な取組み (アンケートの実施等) について検討した。
- ・各種委員会等で JABEE 本体の活動に協力し、連携を密にして取組みを進めた。
- ・平成 14 年度から開始された大学の教育プログラムの審査・認定に関しては平成 15 年度からいよいよ本格的な活動を開始した。電気学会、情報処理学会との連携を密にしながら、審査活動を軌道にのせた。
- ・本学会が主催する JABEE 自主研修会を年 2 回 (12 月と 3 月) 開催し、審査員の養成、既に研修を受けた人に対する変更事項の周知、等の活動を行った。

(4) その他の事項としては

- 昨年度電気系 5 学会との間で、(1) 学会間の協力関係、と (2) 英文論文誌の海外発信、に関するタスクフォースを設立し検討した。平成 15 年度はこの結果を反映するため、新たに電気・情報関連学会連絡協議会を設立して具体的な行動を開始した。
- 平成 15 年度科学研究費補助金 (5 年間) による日本の卓越技術のデータベース作成へ向けて、5 学会連携でデータベース作成を開始した。
- 最高裁が新たに採用した専門委員制度に基づく専門委員の推薦依頼に対して、協力した。

- ・ホームページを中心とした広報活動の充実に努めた。
- ・青少年の科学離れを阻止するための「子供の科学教室」活動を継続的に推進した。平成14年度にその活動原資を会員からの寄付に求め、多くの会員から賛同が得られた。本年度も同じ形で会員の御寄付を募り活動の充実に努めた。この活動については支部との連携を試行した。
- ・会員増強に向けて継続的な活動を展開し、各ソサイエティとの協力体制の下で国際会議の場を活用した海外会員増強活動を推進した。

以下に各事業の実施状況を報告する（○は15年度に新規に行ったもの）。

（氏名につきましては、敬称を略させていただきます。）

I. 本部事業

1. 出版に関する事項

1.1 会誌の発行状況

全会員に共通の場として重要なメディアである会誌は、平成15年4月から16年3月まで12冊、合計441,900部（月平均36,830部）を発行配布した。

記事の内容・件数及びページ数は次のとおりである。

種 類	件数	ページ数	種 類	件数	ページ数
慶 賀	1	1	学生のページ	9	34
追 悼	2	2	学生/教養のページ	6	18
寄 書	5	28	ソサイエティのページ	2	3
回 想	3	10	会 報	2	8
講 演	2	19	私の意見	1	3
会誌改善にあたって	1	2	オピニオン	0	0
総合報告	0	0	学生会報告	2	10
5月特集(暮らしの中のIT —身近な応用システム—)	12	75	支部だより	3	9
8月小特集(次世代産業 基盤を支えるフェムト 秒テクノロジーの動向)	10	52	国際会議 図書紹介	21	—
10月特別小特集(関西を情 報科学する)	7	28	予 定 目 次	9	—
11月特集(グローバル化時 代の教育と研究)	17	91	学会ニュース	3	—
12月小特集(理論計算機科 学の最新動向)	5	23	国内文献目次	6	7
1月特別小特集(ブレーク スルー —そして独創的な技術 は生まれた—)	6	30	図書寄贈一覧 ニュース解説	35	38
2月小特集(地理情報標準 のもたらすもの—携帯、 ITS、Webの電子地図—)	5	26	本会だより	—	19
3月小特集(見分ける、 聞き分ける)	9	52	編 集 室 役員等口絵	—	12
解 説 A	10	38	総会・選奨 フェロー口絵	—	66
解 説 B	23	147	会誌総目次	—	2
解 説	10	52	学会編集室	—	11
講 座	12	70	計	—	1,038
教養のページ	7	20	巻 頭 言	12	12
			目 次	12	36
			会 告	—	656
			合 計	—	1,742

*その他：広告（カラー、前付、後付等）325.5ページ

1.2 広告賞について

平成15年広告賞として下記の2点を選定した。

【カラー広告部門】 日本オートマテック・コントロール(株)
「Transient Generators for Global Immunity Testing.」(4月号)

【一色刷り広告部門】 (株)ライトストーン
「ORIGIN 7.5」(12月号)

1.3 単行本

平成15年度は新刊5点5,000部、重版9点3,900部を発行した。

新刊書は次のとおりである。

新刊書名	発行年月日	頁数	部数
ワイヤレス基礎理論	H15.7.20	384	1,000
リアルタイム音声認識	H15.9.1	232	1,000
超伝導エレクトロニクス入門	H15.11.10	186	1,000
高速ワイヤレスアクセス技術	H16.3.5	332	1,000
マイクロ波シミュレータの基礎	H16.3.20	316	1,000

1.4 教科書「電子情報通信学会大学シリーズ」の発行（全62巻）（コロナ社委託出版）

昭和55年8月以降既刊書目51点、平成15年度は重版11点を発行した。

1.5 教科書「電子情報通信レクチャーシリーズ」(全63巻)（コロナ社委託出版）

大学院及び学部の学生を対象とし、併せて一般勉学者の参考に供するための新シリーズの教科書として平成15年度は新刊6点、重版3点を発行した。

新刊書は次のとおりである。

新刊書名	発行年月日	頁数	部数
脳工学	H15.4.11	240	1,200
光・電磁波工学	H15.7.18	200	1,200
オートマトン・言語と計算理論	H15.11.6	186	1,200
超高速エレクトロニクス	H15.11.13	158	1,200
コンピュータアーキテクチャ	H16.3.31	158	1,200
現代暗号の基礎数論	H16.3.31	198	1,200

(平成14年3月第1回配本以降通算12点)

2. 規格調査会に関する事項

委員会議を4回、専門委員会及び小委員会を62回開催した。取り扱ったIEC文書は461件で、そのうち166件に対して日本の意見を回答した。

規格調査委員会名	専門委員長名	委員数		開催数	
		専門(委)	小(委)	専門(委)	小(委)
1 規格調査委員会議	高木 幹雄	14	0	4	0
2 電子部品のデータ要素	高木 幹雄	0	24	0	6
3 通信用伝送線路	西村 陽	11	58	4	9
4 周波数制御・選択デバイス	兒島 俊弘	22	29	4	7
5 光ファイバ	羽鳥 光俊	20	91	4	8
6 デザインオートメーション	高木 幹雄	21	51	5	3
7 無線通信用送信装置	福地 一	18	0	2	0
8 電子通信用語	吉村 久乗	24	0	2	0
9 電子通信記号		14	0	0	0
10 複雑システムの安全規格委員委員会	鈴木 喜久	10	0	4	0
合 計		154	253	29	33
				62	

3. 選奨に関する事項

所定の手続きによって選考が進められ、次のとおり各受賞者を決定した。

3.1 功績賞(第65回)

今 井 秀 樹 (東 大)